

文化の高山

No.123 2011.1.1 Culture in Takayama

謹賀新年



「匠の技 干支展」より

都竹勝子さん作

社団法人 高山市文化協会発行



高山市昭和町1丁目 高山市民文化会館内 Tel. 34-6550 Fax. 34-6877

メールアドレス ●mail@takayama-bunka.org

ホームページアドレス ●http://www.takayama-bunka.org

(文化会館の催し物案内はこのホームページをご覧ください。)

その観点から見ると、我が高山市は、東西の急峻な山脈と広大な山林に囲まれて守り伝えて来た人の潤い、人の優しさに育てられた町だと言え

ます。世界が政治経済の面において広くつながり均一化されていく時代ですが、こんなときこそ、地域の特性を発揮し、そこにしか無い自然と、そこに永く守られた伝統文化の光を輝かせることが求められるのだと思います。その意味で自然や伝統文化を守り伝える地域こそが、いかなる波瀾をも乗り越える力を蓄えていると言えます。

昨年までの不況を今年こそは綺麗さっぱり忘れ、心も体も、人も町も生氣を取り戻してほしいと思います。世界が政治経済の面において広くつながり均一化されていく時代ですが、こんなときこそ、地域の特性を発揮し、そこにしか無い自然と、そこに永く守られた伝統文化の光を輝かせることが求められるのだと思います。その意味で自然や伝統文化を守り伝える地域こそが、いかなる波瀾をも乗り越える力を蓄えていると言えます。



輝かし
き平成二
十三年の
新春をこ
家族お揃

いでお迎えになられましたことを心よりお慶び申し上げます。

人は苦しい時、何かの支えを求めます。それは人によつて、宗教であったり、家族であつたりします。そんな時、人は最終的に個に帰ります。個に帰った時、心を癒し支えてくれるものは、さまざまな形で潜在する個人特有の持ち味と言ったものではないかとも思います。

人は千差万別の個性を持つています。高山市文化協会は、この町が持つ良き雰囲気づくりに努めています。今日蒔いた種が、

たどる花開くのが何年後になるうとも、目先の名利にとらわれず個の種、町の種を蒔き続けます。世の中が世知辛くなればなる程、こうした活動が一層必要とされます。

一人ひとりの文化的な生活から生まれる地域全体の活力の誕生に貢献していきたいと思ひます。

(社)高山市文化協会

会長 小鳥 幸男

新しき文化的風土づくりの為に

文化功労者を顕彰

永年に亘り、文化振興とその発展に尽力された方を顕彰します。表彰式は1月1日開催の新年互礼会で行います。

(敬称略・順不同)



榎木 孝一

昭和16年3月1日生 高山市名田町3
昭和30年県展入選、中部春陽展奨励賞を受賞。このあと市展、県展で多数受賞。平成14年中部春陽展入選以後毎年入選をなす。平成20年には中部春陽展同人推挙される。また高山市美術展覧会運営委員長を務め、芸術文化の発展に寄与している。



山腰 曠

大正15年1月10日生 高山市二之宮町山上下
昭和56年事故により利き腕の右腕を切断。その後左手で水墨画や日本画を学び、平成3年臥龍桜日本画大賞展に入選。以後同展、県展、サロン・ド・ボザール展など入選多数。また地域での文化活動の後継者育成にも尽力している。

高山市文化協会は、この町が持つ良き雰囲気づくりに努めています。今日蒔いた種が、

たどる花開くのが何年後になるうとも、目先の名利にとらわれず個の種、町の種を蒔き続けます。世の中が世知辛くなればなる程、こうした活動が一層必要とされます。

一人ひとりの文化的な生活から生まれる地域全体の活力の誕生に貢献していきたいと思ひます。

高山市文化協会の活動を理解しお願ひいたくことを皆さんにお願いします。新年の抱負とい

高山市文化協会の活動を理解しお願ひいたくことを皆さんにお願いします。新年の抱負とい

十七日、高山市吹屋町の「武満長屋」で生まれ、学校時代から工芸など彫刻が得意でした。昭和三年、高山市本町の一位細工師・田中松祐吉に弟子入りし、木工芸の修行を始め、飛騨一宮水無神社社納券を複製しました。

十五歳の時に上京し、神田区鍛冶町の「宮惣」で神輿や神棚の製作に励み、腕を上げました。浅草観音寺の五尺灯笼十二基、神輿、東大連神社、造幣局金神社本殿など、後世に残る仕事をしています。

また、社内で良き伴侶とめぐりあい結婚。一男一女もうけました。しかし、上京十二年目にして応召され岐阜歩兵六十八連隊に入隊。その時、長男は一歳(源蔵の後を継ぎ、宮士になる良典)でした。東京は空襲が激しくなり、親子三人は母の実家がある神奈川県に疎開しました。



白木 源蔵氏

源蔵は昭和二十一年に復員し、家族で高山へ帰郷。宮大工の仕事をしたかったのですが、マッカイ指令の神社崇拝禁止により、やむなく、建具業を始めました。

昭和五十六年、屋台修理職人集団「高山・祭屋台保存技術協同組合」が組織され、源蔵も組合員になって恵比寿台三番叟のカラクリなどを修理しました。

さらには、全国の山車製作も手掛け、成田山新勝寺の山車「倭タケル」、東京の江戸東



完成した神棚を見る源蔵氏

京博物館に展示されている山車の新調工事に加わって活躍しました。NHKテレビに出演し、宮士として芸術に近い技能が紹介されました。そこまで到達するには、機械で指を二本切断してしまったり、マラリヤの後遺症で手指関節が動きにくくなってしまうなど、さまざまな困難を乗り越えての卓越技能です。

多くの技能表彰を受け、高山市展覧委員、民生委員を長く務め、民生委員では自治功労章を受章されています。

長男の良典氏に聞いた話ですが、父から仕事は直接習わず、仕事場に父がいなくなっ

てから仕事の状況を見て学んだとのこと。また、めだたの唄い方を、すだれが風になびいて揺れている情景を思い浮かべて唄え、と伝授してくれたとのこと。

高山市長と語る会

高山市文化協会は、郷土の文化振興と発展に向けて、市民の皆様とともに活動を展開しています。

十一月十九日には、「市長と語る会」を開催し、高山市文化協会が中心となって行っている文化団体の活動について、共通した理解の上立ち、文化振興を目指した話し合いを行いました。今回の主な議題は次のとおりです。

▽高山市美術展覧会の管理と運営について▽高山祭の屋台

行事のユニスコ無形文化遺産の一覧表への記載に向けた取り組み状況と、ユニスコ世界遺産の登録の取り組みについて▽旧矢島邸跡地と郷土館の概要について▽市民文化会館等の修繕及び改良について▽市民文化会館の利用者サービス向上について▽高山駅西開発にかかると高山市施設の管理者及び地域住民の意見聴取について

第14回近代文学館企画展 「郷土の文学碑展」

—— 東山編 その二 ——

高山市に關わりの深い文学作品等を紹介し、郷土の文学を身近に感じていただくこと、市図書館煥章館内に近代文学館が開設されており、定期的に企画展を開催しています。

今回は、前回に引き続き「郷土の文学碑展『東山編』その二」として、故中舎高郎氏が執筆された「飛騨の文学碑遍歴」の中から、飛騨寺院群の内、素玄寺や雲龍寺の墓地などにある碑や墓について、パネルで紹介いたします。

素玄寺墓地にあるものには、大原楚語(彦四郎)墓、杉原屋平八墓、清水久六(竹母)墓などを紹介します。

大雄寺墓地では、瀧井孝作(新三郎)墓、都竹しめ路墓

おめでどうございます

文化協会会員の受賞・表彰

岐阜県文化継承者顕彰

中村重信(75) 高山市冬頭町

飛騨地方の祝い唄「めでた」の講習を三十年間続け、地域文化の後継者育成に努めた功績



中村重信

岐阜県卓越技能者

元田 勉(58) 高山市大新町二

彫刻の道に研鑽、その発展に寄与された功績



元田 勉

(敬称略)

平成二十三年

飾り物展

「干支「卯」と歌会始のお題「葉」



主催：社 高山市文化協会 共催：高山市・高山飾物同好会

日時/ 1月14日(金)~16日(日) 午前9時~午後7時(16日は午後4時まで) 場所/ 高山市民文化会館 3-11

※上の写真は昨年の天位の作品

道伝えの日 「芭蕉忌句会」入賞句発表

◎一般の部

兼題句「曼珠沙華」

【天位】 トンネルを郷より掘り曼珠沙華 山本 史子

【地位】 火伏札貼りて廢屋曼珠沙華 高木 みつ江

【八位】 曼珠沙華独りの音に慣れにけり 数崎 清子

【佳作】 どれがらちどれがははやら彼岸花 長田 竹風

野仏はみな優しかり曼珠沙華 山下 守

休耕田の風かたまつて曼珠沙華 中田 由紀子

立て札は山門不幸曼珠沙華 森本 喜恵

曼珠沙華挿、頭し哇ゆく童がな 黒川 みつ恵

【互選の句】 野仏はみな優しかり曼珠沙華 山下 守

火伏札貼りて廢屋曼珠沙華 高木 みつ江

蒸ふるふほどの風なり曼珠沙華 木村 ちづ

曼珠沙華譲れぬことの揺らぐとき 小原 孝子

燃え尽きるまでひたすらに曼珠沙華 田村 喜栄

【天位】 当季雑詠句 葉裏見せ連山揺るる大早 中田 由紀子

【地位】 望の月一病室を照らしけり 清水 敬子

コスモスの揺れて降るとも見えぬ雨 荒井 美和子

【佳作】 鉛筆を削れば匂ふ夜の秋 山下 守

寺の娘が寺へ嫁さぬ十三夜 中嶋 文子

秋のもの幾許嗜みしむ七回忌 大溝 裕子

たまに出す器ありけり赤のまま 野村 勝巳

湧水は鏡となりて秋映す 下屋 孝雄

【互選の句】 牧の牛のたりと産り端雲 溝端 文子

秋うらら光にかざす針のめど 野口 恒子

大太鼓秋ふるはせて打たれけり 長瀬 理々子

満月や抱かせてもふつの子 黒川 みつ恵

寄りかかるものなかりけり夕 桂川 晶子

◎高校生の部(順不同)

飛騨神岡高等学校 赤トンボ見慣れた絵文字の夢の中 一年 下垣 夢乃

大穴伸して大の字や草紅葉 二年 柴田 将弥

彼岸花理命ならばまた一翳美カシオペア最初に伝える君だけに 三年 山口 郁美

オリオンや時を撮る砂時計 一年 林 弥宏

ふつくらな稲穂に似ての祖母の笑み 二年 新井 隆太

高山山西高等学校 照れている真つ赤に染まるもみじの葉 一年 角川 舞希

益田清風高等学校 目をつむる秋の午睡に身をゆだね 三年 安江 有可

催事のお知らせ

光記念館初公開 絵画展 (モネ・ゴッホ・ルノアール・ルソー・歌麿・写楽) 期間/二月二十六日(土)~五月二十二日(日) 会場/光記念館 入場料/大人九〇〇円 休館日/毎週水・木曜日